OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫　TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20　前田茂夫　TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１４年１０月（2002 年）No. ４４２

例会場の変更を検討、まず１１月は難波で

－阿倍野会場は手狭と第４土曜日にセンター行事の多いことの問題が－

上本町６丁目のホテルアウィーナより、会場を現在の阿倍野市民学習センターへ移った 1996 年（平成 8 年）2 月でした。あれから６年、例会参加者も、移った最初の月が 12 名に過ぎなかったのが、最近では 25 ～ 30 名の盛況でよそから椅子を調達して急場をしのいでいる有様。大きい研修室だと会場費が２倍半以上かかるのと部屋の確保が難しい（２部屋しかない）実状にあります。また、阿倍野市民学習センター主催の行事が土日に多く、土曜が祭日で夜間の休館も含めて年５回も第３土曜日に振り向けざるを得ない事情があり、第３土曜日に例会を開いている他クラブへ参加されている会員さんから、何とかならないか、という意向が伝えられていました。問題は、デッキを保管しているロッカーがネックでした。有村世話役が代表をしておられる「大阪ビデオクラブ」が難波市民学習センターで第２土曜日に例会を開いていますが、調べてもらいましたら、ロッカーの空きもあるとの事、寸法もデッキが保管出来そうだとのことで、ＯＭＣの例会場として難波市民学習センターへ移したらどうかと、合原会長、関副会長、森会計担当が現地調査をして検討した結果、思い切って移すことにしました。新会場は 36 名定員、テレビも２台借りて運営します。会場費が年間４万円ほどアップし、運営が少々きつくなりますが、ゆとりのある会場で、ゆっくり例会を楽しめたらと思います。なお 11 月より梅田の第２ビルにも学習センターが出来ますので、こちらも調べて難波か梅田か、講堂での発表会も含めて、将来的にどちらがよいかよく検討します。なお 11 月は難波にて第５土曜に開催します。ＪＲ難波駅の４階（OCAT ビル）で、交通の便はよいところです。急な話でしたが皆さんご了解ください。

１０例会と研究会のお知らせ

上記の通り 11 月から難波に移りますが、**10月は19日（第3土曜）**阿倍野市民学習センターにて、研究会は 13 時半より例会は 18 時より行います。作品研究会には未完成作品でも結構です。助言や意見を求めたい作品などどしどしお持ちください。例会では皆さんの作品を楽しみにお待ちしています。阿倍野会場での最後の例会です。楽しくやりましょう。

■予告：かねて 11 月例会は阿倍野市民学習センターにて第３土曜日と予告（第４が祭日で会場が休館）していましたが、**難波学習センターで11月30日（第５土曜日）**を会場確保しましたので、第３土曜の予定を第５土曜に変更して開催します。

■コンテスト入賞おめでとうございます

安居良枝さん「街の表情」とっとり「ふるさと映像祭」（東伯町）主催コンテスト・東伯町教育委員会・教育長賞」。なお、この作品は第６回大阪アマチュア映像祭（11月７日・中央図書館）で上映します。

９月例会レポート

ひと頃の暑さもぐっと和らいで、初秋らしいさわやかな季節となった。今月も例会を待ちわびた人が大勢来場され、30 名の多きに達し嬉しい悲鳴をあげた。今月の司会は関さん、書記は合原さん、デッキ係、江村さんと河合さん、受付兼照明係は安居良枝さんの担当で会を進行した。

■出席者：有村、今井、江藤、江村、岡本、奥、上総、河合、合原、関、石垣、森、中尾、那須、西村、華岡、藤原、前田、増池、宮崎、森口、安居夫妻、森田、森下、進藤、吉岡、渡辺、玉井夫妻の３０氏（うち玉井氏の奥さんは見学者）。

■上映（今月の講評担当は合原会長です）

1)往年の岸和田祭　　増池さん　8分50秒

前田さんにテレシネしていただいたという往年の８ミリフィルム作品。25 年も前の映像で観客の数も今より大分少ない。撮影もなかなか良く出来ており感心した。現場音は最近のものらしいが、違和感無く拝見できた。

2)荒神を里に迎える日

玉井　匀さん　　9分53秒

トップシーンはＪＲの車窓風景で、通り過ぎる田園風景の中で、神社が見えたときそこにストップモーションで停止、タイトルをかぶせるという手法をとられている。

これから神社にまつわる追想、という脚本でよく用いられる一寸シャレタ導入部だが、全体の構成からみると、「追想」ではなく、記録となっているのが少し気にかかる。しかし、荒っぽい岩山下りの御輿の場面は３年もかけて撮影したというだけあって迫力がある。Hi8 で平成７～９年撮影で、お蔵入りしていたものを、このほどノンリニア編集されたものという。いい作品を見せてもらった。

3)あそび縁日　安居良枝さん　6分30秒

平野の町おこしの一環として第２土曜日にやっているとか。ベーゴマ遊びなど昔なつかしい遊びの数々が出てくる。世代間交流復活ボランティアとしての位置づけで催されているという。ナレーションのボリウムが少し高くて音がこもっているようだと司会の関氏より指摘があった。癒しを感じさせる作品だ。

4)弥生幻想　　安居利次さん　　6分55秒

和泉市に最近出来た弥生博物館内の展示物を中心にイラストなども挿入して纏められた作品。安居さんらしいテーマで、うまく編集されている。ナレーションのハイがとんでしまっていて、はっきりしないのが残念と司会の関氏より指摘があった。

5)２００２よさこい

江村一郎さん　　9分40秒

江村さんの故郷という高知、毎年のように里帰りされて「よさこい祭」を撮影されており撮影ポイントをよく捉えておられるようだ。よさこい祭りの本場だけに迫力満点だ。もっとも司会の関氏は、少しスローのカットを多く採り入れられて今までの作品と若干違う作風に仕上がっている、との感想を述べられていたが、どちらにしてもほとばしるエレルギーが伝わってくる。

6)清姫情炎太鼓

岡本至弘さん　　5分40秒

川面にドライアイスを流し照明で清姫の水に入るドラマチックな画面と、ダイナミックな太鼓をたたくシーンとをだぶらせて構成された岡本氏の意欲作。太鼓だけでは単純なので別の機会に撮られた清姫の場面とを組み合わせてみたと作者のコメントあり。ドラマ仕立てであれば、太鼓をゆっくりたたくところから、クライマックスの早打ちへと太鼓の音のリズムに変化をもたせると、もっと盛り上がったかも知れない。簡単なテロップ説明も考えていいと思うが・・・・。

7)盆踊りがやってきた

河合源七郎さん　　5分32秒

こういうイベントの記録ものは、会員諸氏もよく頼まれて撮影されることもあると思われるが、要は撮影の目的をはっきり意識して撮り、作品構成をする必要がある。頼まれものの場合は、依頼主とよく事前に打ち合わせて撮影の主旨を理解し、目的にあった編集を心掛けること。自分の作品として撮影する場合では、お年寄り達の楽しそうな表情を中心に暖かい目で構成したら見る方もほっとした暖かさが伝わってくる筈である。そういう見方からすれば、本作品は楽しそうな表情がよく描かれていてよかった。ラストの急に物寂しい音楽はせっかくの盛り上がりをうち消して後味が淋しくなった。明るい表情のうちに、明日からも元気で過ごそう、との思いが画面から伝わってくれば大成功と思うが。ナレが入る作品ならそういうナレで終わるのもよい。

8)三つの阿呆連

上総修一郎さん　　11分0秒

徳島の阿波踊りの作品は、これまでにもたくさん見せてもらったが、上総さんはありきたりの構成をさけ、三つの阿呆という観点から作品をまとめられた。踊らぬ阿呆は、見物人、踊らす阿呆は、主催者が姉妹都市仙台市からのお客さんや客船のお客さんや踊り子、外人さんたちなど、踊る阿呆は、本来の踊り人たち。なるほど、年々盛んになる阿呆踊りもいろんな仕掛けで盛り上がっているのだなあと感じ入った。しかも、いい場所で踊り子たちの中に入ってよく撮られたものと感心した。楽しい作品だ。

9)三都市を巡る　　有村博さん　　10分

昨年ニュージーランドへ旅行されて、作品を４～５本作られた由で、これは残りのカットでまとめたもの、とまずは作者のコメントあり。残りのカットでまとめたとするにはいかにも出来過ぎ、まずは南島最大の街クライストチャーチ。協会、市電、旧大学、博物館、公園、川下りの小舟などが紹介される。２番目はクイーンズタウン。美しい湖が中心だが、残りカットがあまり無かったのか、ここはあっさりと描写。３番目はオークランド。ニュージーランド最大の都市で首都。船が行き交う川や街のたたずまいが紹介される。クライマックスはオークランドの博物館で催される先住民族の踊り。マリオ族の”ガンバッテ、ガンバッテ”の歌と踊りでラストを飾ってある。海外旅行ものとして楽しい作品になっていた。

10)離宮の水　　森口吉正さん　6分50秒

大阪府で随一の日本名水百選に数えられた島本町の名水を取り上げた作品。水無瀬神社の一角にその水汲み場があり、昔から茶会の水にも使われていたという。ウイスキー工場の発祥の地でもあるらしい。判りやすく、聞き取り易いナレーションが的確に入っていて、良い作品に仕上がっている。

11)那智の火祭　吉岡貞夫さん　8分30秒

大きな祭を作品にするには、一人では手に負えないものだが、これは関、吉岡、森の３氏と大阪ビデオクラブの紙本氏の４氏で共同撮影し、画面を交換して作られた由。

壮大な火祭りの雰囲気がよく伝わってきて立派な作品に仕上がっている。いい撮影位置を確保して迫力ある映像をモノにしておられて、見る者は画面に惹きつけられた。

12)四天王寺万燈供養

森　保信さん　　7分22秒

昼間の付近の情景描写から始まって、店頭前のローソクが並ぶシーン、そして着火で華やかな境内の様子に一変する。手を合わせる人、黙って見ている人のカットが万灯供養の雰囲気をかもし出していて良かった。ただ写真を撮っている人やガードマンを先頭に坊さんが歩くカットはムードを壊すので、省いたほうがよいように思う。荘重なＢＧＭはマッチしていたように思う。

13)盆踊り　　岡本至弘さん　6分0秒

時間があればと追加されて上映した作品。高井戸の盆踊りの夜、露店と盆踊り大会をふかん撮影を交えて撮影された記録もの。

以上で上映を終了。２次会場へ移動した。

■今年も靭公園花と彫刻展

ミニ撮影会で好評の「花と彫刻展」は、今年も 10 月 16 日より 11 月 4 日まで、靭公園にて開催される。作品づくり勉強のよきテーマなので、出掛けられたら如何？

■紀行

「花畑を往く」によせて

河合源七郎

８月例会で皆様に見ていただいた「花畑

を往く」の撮影の背景を少し書いてみたい。私は、５年前から全国の海岸を廻って、野生のハマナスを追っかけている。バラの原種は世界で百数十種あると言われているが、そのうち日本に野生するのは 14 種である。たった 14 種かと思われるかも知れないが、そのうちの4種が欧米で取り入れられて、現在の絢爛豪華な園芸バラの誕生に寄与した。その4種のうちの一つがハマナスである。とは言うものの「同じ花」を何年もかかって全国を追い回すのは、気違い沙汰だと言われても仕様がない。

「同じ花」と書いたが、実はハマナスの変種に「八重のハマナス」と「白いハマナス」がある。何れも自然変異によるものだ。「八重のハマナス」はもはや園芸の世界でしか見ることは出来ないが、「白いハマナス」は野生のものを見る可能性が残っている。何人かの先達が 20 年ほど前、北海道の「野付半島」で「確認した」という記録を残しているからである。

野付半島は、北海道の知床半島と根室半島の中間地点で、オホーツク海に「エビが背を丸めた」ように突き出ている砂嘴(サシ)の半島である。ここは、滅び行く「トドワラ」や「ナラワラ」の枯木立があり野草と野鳥の宝庫で、訪れる観光客も少なくない。

しかし、観光客が足を踏み入れるのは、トドワラの見える原生花園までである。
今年７月私たち夫婦は、野付灯台を左手に見ながら、誰一人として出会うことのない道を歩き続けること1時間ばかりで、野付半島で一番奥深い砂嘴への渡り口に着いた。ここは湿地帯で用意してきた長靴が役に立つ。湿地帯を渡りきると、自然の花畑が広がりその真ん中を道らしき一条の線がずーっと伸びている。しかし道には草が膝まで伸びていて、少なくとも雪が解けてからは人が通った形跡はない。私たちが今年の歩き初めだ。

ハマナス、エゾスカシユリ、ハマボウフ、センダイハギ、エゾアザミ、フウロソウなどがのびのびと北国の春を謳歌している。野鳥たちも様々な鳴き声をたてているが姿は見えない。兎に角、砂嘴の先端まで行ってみようと歩き出すが、茨や草が足にまつわりついて遅々として進まない。道から外れて、「くさむら」の中に白いハマナスが咲いていないかと調べる。ハマナスの刺は鋭くしかも密生しているので、一旦「くさむら」に分け入ると、刺との熾烈な戦いが続く。今回の旅の第一の目的だから、妻と手分けして次から次へと「くさむら」に突入して調べた。

この日、野付半島の気候は薄曇り、最高気温はなんと 14 度の寒さ、セーターを着込んでその上にヤッケを羽織って丁度位。然るに何としたことか「藪蚊」の大襲来。人が滅多に通らないので血に飢えていたのだろう。こんな苦労をしながら砂嘴の先端まで辿り着いたが　、湿地帯を渡ってから 2 時間半ばかり経っていた。座る場所もなく、立ち止まれば「藪蚊」の襲来とあって、昼飯の「おにぎり」は歩きながら頬ばった。6 時間半歩き回ったが、とうとう「白いハマナス」を見付けることが出来ないまま車に戻った。

体力をどれだけ要するか予測がつかなかったので三脚や付属品は一切持たず、記録のためのビデオカメラだけ下げていた。ウィンドジャマーも車においたままだった。帰ってきてラッシュを見たらカメラはブレているし、小鳥の鳴き声も風切り音でものにならない。勿論作品作りが目的でなかったから、当然の結果かも知れないが。

しかし、誰一人として訪れることのない自然の姿を見ていただくのも一興かと思い、イントロの部分は2年前の映像で補い、小鳥の音は切り接ぎをして恰好をつけた次第である。

■今月のインターネット作品

吉岡作品　　「那智の火祭」です。

■投稿のお願い

今月は、先月上映した河合さんの「花畑を往く」撮影の苦労話を、寄せていただきました。紀行、随想、ニュース等何でも結構ですから、投稿お願いします。分量は問いませんが、400 ～ 1200 字程度。送り先：前田宛、なるべくならメール添付で、または手紙で。投稿をお待ちしています。

■インターネット情報

ネット版ニュースでご覧ください。